

第4章 特徴的な景観づくりのイメージ

長崎の景観は、第1章の「景観の領域」や「景観の軸」「景観の焦点」など景観構造の観点だけで表現することは困難です。山や海、市街地などすり鉢状の地形が展開したパノラマ景観や海・山・里の自然が織り成す景観、様々な要素が混じり合う中心市街地の景観、生活感があふれる農村・漁村の景観など、私たちが暮らす地域にはここにしかない魅力があります。このような地域の魅力を、視覚的に育てていくのが景観づくりです。地域の魅力を高める景観づくりを進めることで、私たち市民一人ひとりが郷土への愛着や誇りを持ち、長崎に住むことのすばらしさを実感し、また、来訪者に長崎の良さを知ってもらうことにつながります。

本章では、特徴的な景観を例示した上で、各地域の魅力を高めるための景観形成の方向や配慮事項を、第2章の基本方針や主要な取組みと関連させて、イラストを交えてわかりやすく解説しています。

I 特徴的な景観

本章では、以下の特徴的な景観に対応して、市全体の景観形成の方向と景観づくりのイメージを示します。また、次ページには特徴的な景観を有する場所を示しています。

1. 地形の豊かさがつくる大景観

●港と都市の眺望景観	高台から港と都市を眺望する際の景観に関わる景観づくりの方向について示します。
●港と都市の眺望景観 (夜景)	上記の「港と都市の眺望景観」の夜景に関わる景観づくりの方向について示します。
●海・山・里の眺望景観	高台から海・山・里を眺望する際の景観に関わる景観づくりの方向について示します。
●山とまちを仰ぎ見る 眺望景観	中遠景に山やまちを仰ぎ見る際の景観に関わる景観づくりの方向について示します。

2. 積み重ねられてきた歴史性・場所性を醸し出す景観

●歴史・文化の景観	歴史・文化の景観に関わる景観づくりの方向について示します。
-----------	-------------------------------

3. 様々な要素が混じり合う中心市街地の景観

●まちなかの景観	まちなかの景観に関わる景観づくりの方向について示します。
●住宅地の景観	住宅地の景観に関わる景観づくりの方向について示します。

4. 景観に活力を与える個性豊かな地区の産業景観

●農地・集落の景観	農地・集落の景観に関わる景観づくりの方向について示します。
●漁港・集落の景観	漁港・集落の景観に関わる景観づくりの方向について示します。
●港湾の景観	港湾の景観に関わる景観づくりの方向について示します。

5. 海と交わる自然景観

●海岸の景観	海岸の景観に関わる景観づくりの方向について示します。
--------	----------------------------

II 景観づくりのイメージ

以下に、特徴的な景観と基本方針との対応関係を示します。また、次ページ以降に特徴的な景観ごとの景観形成の方向や景観づくりのイメージを、イラストをまじえてわかりやすく示します。

【景観類型】	【基本方針1】 魅せる 大景観づくり			【基本方針2】 個性を磨く 景観づくり			【基本方針3】 愛着のある まちづくり			【基本方針4】 逆手の 魅力づくり		
	1-1 輝く海と豊かな緑を大切に する	1-2 都市の表情を大切に する	1-3 まちの印象(口)を磨く (口)を大切に する	2-1 特徴ある歴史的な 倉庫や地区を活かす	2-2 地域性が感じら れる産業景観を活かす	3-3 回遊性を つくる	3-1 生活感のある 景観を大切に する	3-2 季節感のある 景観を大切に する	3-3 公共空間を 大切に する	4-1 斜面地の 魅力を活かす	4-2 渾然とした まちの魅力 を活かす	4-3 日本西端の 魅力を活かす
I 地形の豊かさがつくる大景観												
●港と都市の眺望景観		★	★								★	
●港と都市の眺望景観(夜景)		★	★							★	★	
●海・山・里の眺望景観	★		★							★		
●山とまちを仰ぎ見る眺望景観	★	★	★							★		
II 積み重ねられてきた歴史性・場所性を醸し出す景観												
●歴史・文化の景観				★	★		★					
III 様々な要素が混じり合う中心市街地の景観												
●まちなかの景観		★		★				★		★	★	
●住宅地の景観		★					★	★		★	★	
IV 景観に活気を与える個性豊かな地区の産業景観												
●農地・集落の景観					★		★	★		★		
●漁港・集落の景観	★				★		★	★		★		
●港湾の景観		★		★	★				★			★
V 海と交わる自然景観												
●海岸の景観	★		★						★			

★：特に関連が深いもの

1 地形の豊かさがつくる大景観

(1) 港と都市の眺望景観

都市のシルエットに十分に配慮し、すり鉢状の地形を活かしながら、港と都市との連続性を大切にした景観づくりを行います。

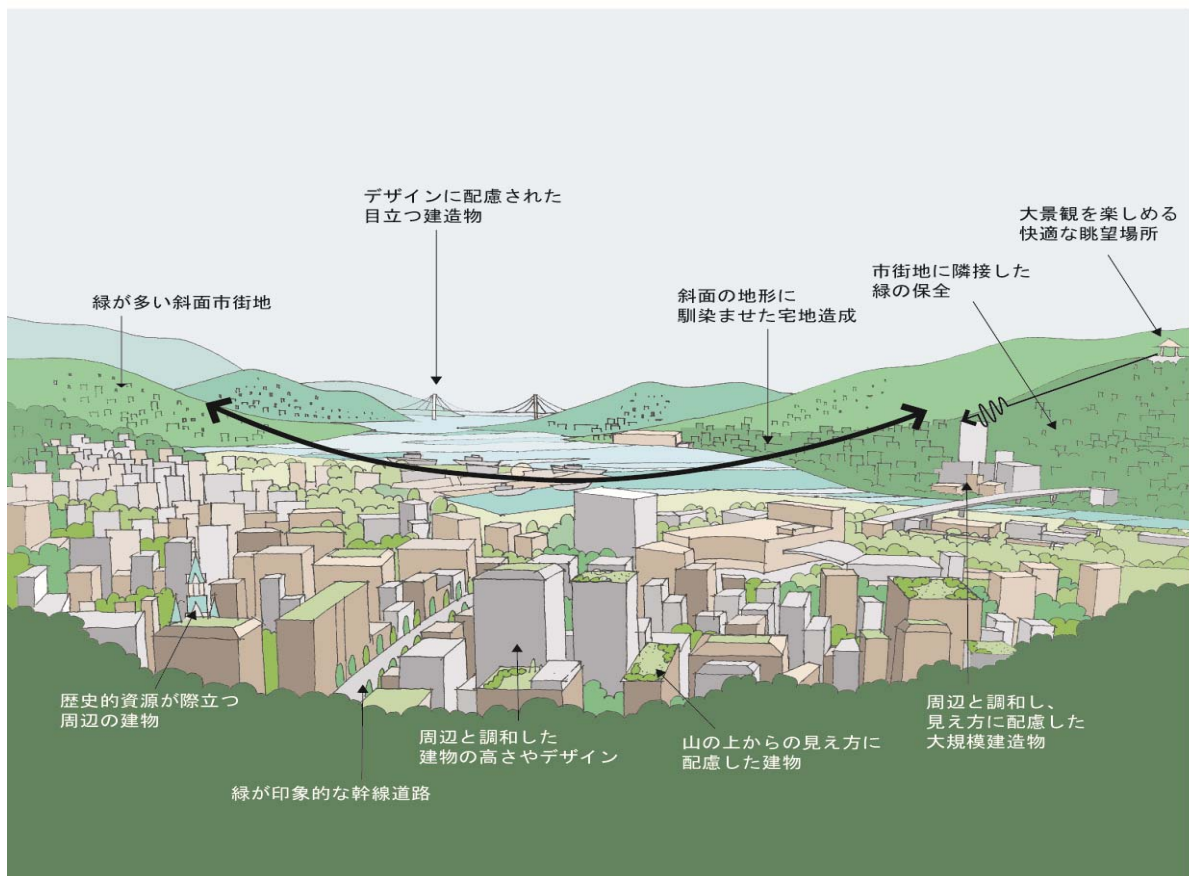
本景観は、山すそに広がるまちなみや港、海域が織り成す広がりのあるパノラマ景観であり、すり鉢状の地形に展開するまちの様子など、長崎市の中心市街地の全体像が最もわかりやすく把握できる個性的な景観です。しかしながら一部では、高層建築物等により海への眺望が阻害されたり、周囲から突出するような派手な色彩の建物等が見られるところがあります。

このため、建物等の建設にあたっては都市のシルエットに十分に配慮し、すり鉢状の地形を活かしながら、港と都市との連続性を大切にした景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

港と都市との連続性を大切にした景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



(2) 港と都市の眺望景観（夜景）

照明による夜ならではの賑わいを演出するとともに、眺望場所の整備などを行うことにより、港と都市の夜景が楽しめる景観づくりを行います。

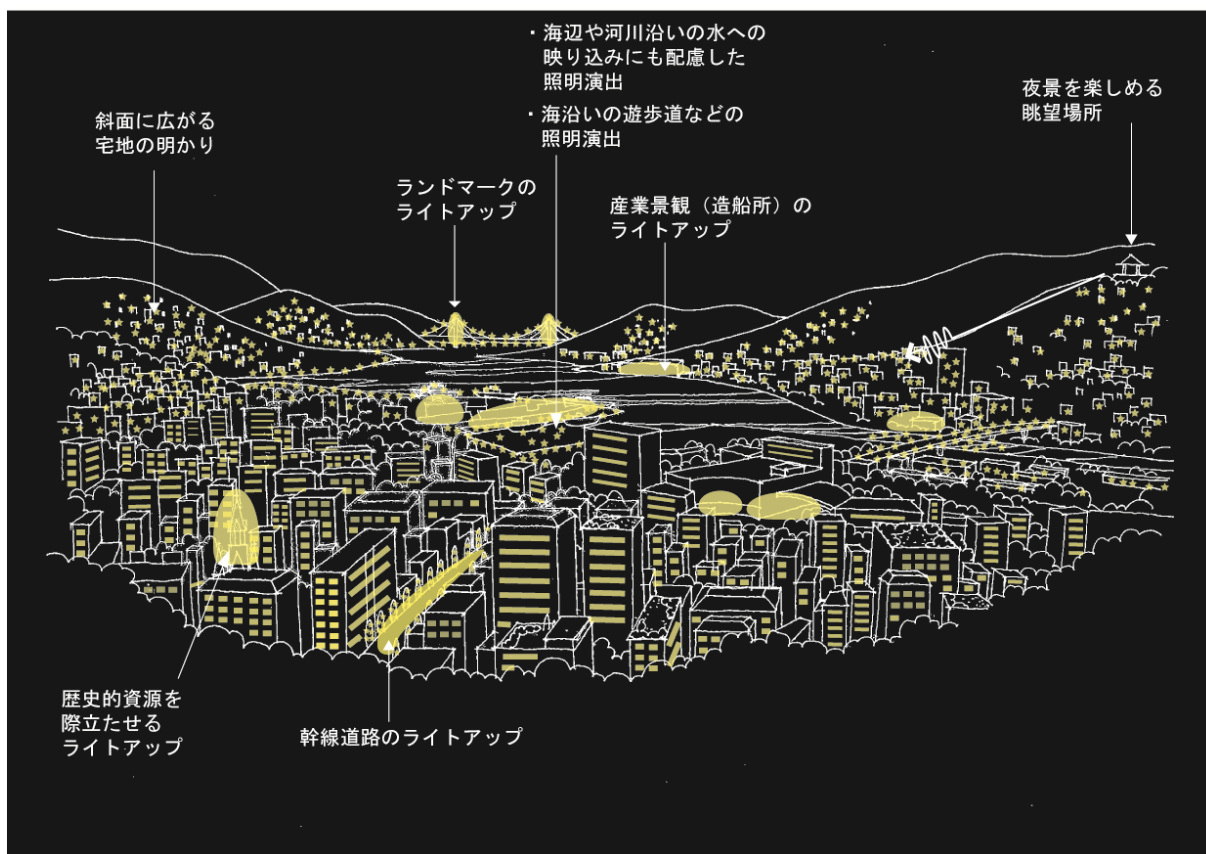
本景観は、まちなみや港、海域が織り成すパノラマ景観の夜景であり、建物の明かり、街灯、車のライト、屋外広告物、港湾施設、船舶等のまちや港の明かりに照らし出され、昼間とは違った表情を見せます。近年、斜面住宅の空家の増加等により、住宅地の明かりが少なくなってきたとの指摘があります。一方で、街灯の整備や施設へのライトアップ等により、新たな明かりが増加しつつあるところもあります。

まちのシンボルとなる道路や観光上重要な道路、歴史的な建物や地域のランドマークとなる施設などについては、照明による夜ならではの賑わいを演出するとともに、眺望場所の整備などを行うことにより、港と都市の夜景が楽しめる景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

港と都市の夜景が楽しめる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



(3) 海・山・里の眺望景観

のどかで広がりのある景観印象を保つためにも、海や山との調和に十分に配慮し、海・山・里が一体となった景観づくりを行います。

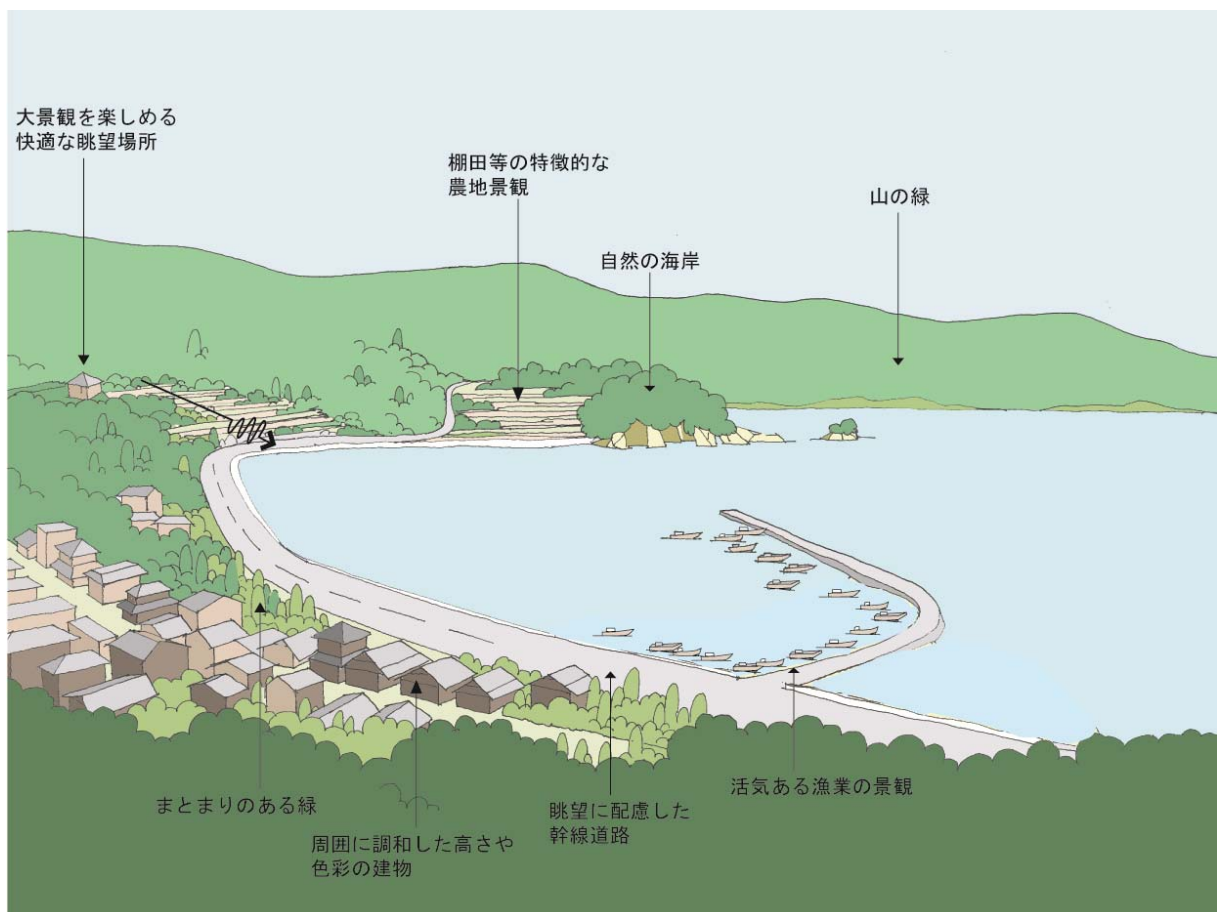
本景観は、山すその樹林を介して、海沿いに広がる集落、斜面地等に広がる農地などが織り成すパノラマ景観であり、山が海に迫りわずかな平坦地に集落が形成されている長崎市の特徴がわかりやすく捉えられる景観です。現状では、低層の建物が中心の集落にあって、周囲より突出した高さの建物や、目立ちやすい派手な色彩の建物などが一部に見られるところがあります。

このため、のどかで広がりのある景観印象を保つためにも、建物等を建設する際には、海や山との調和に十分に配慮し、海・山・里が一体となった景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

海や山との調和や一体性に配慮した景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



(4) 山とまちを仰ぎ見る眺望景観

背景となる豊かな樹林を保全するとともに、周囲との調和に十分に配慮し、海や山に包み込まれるような景観づくりを行います。

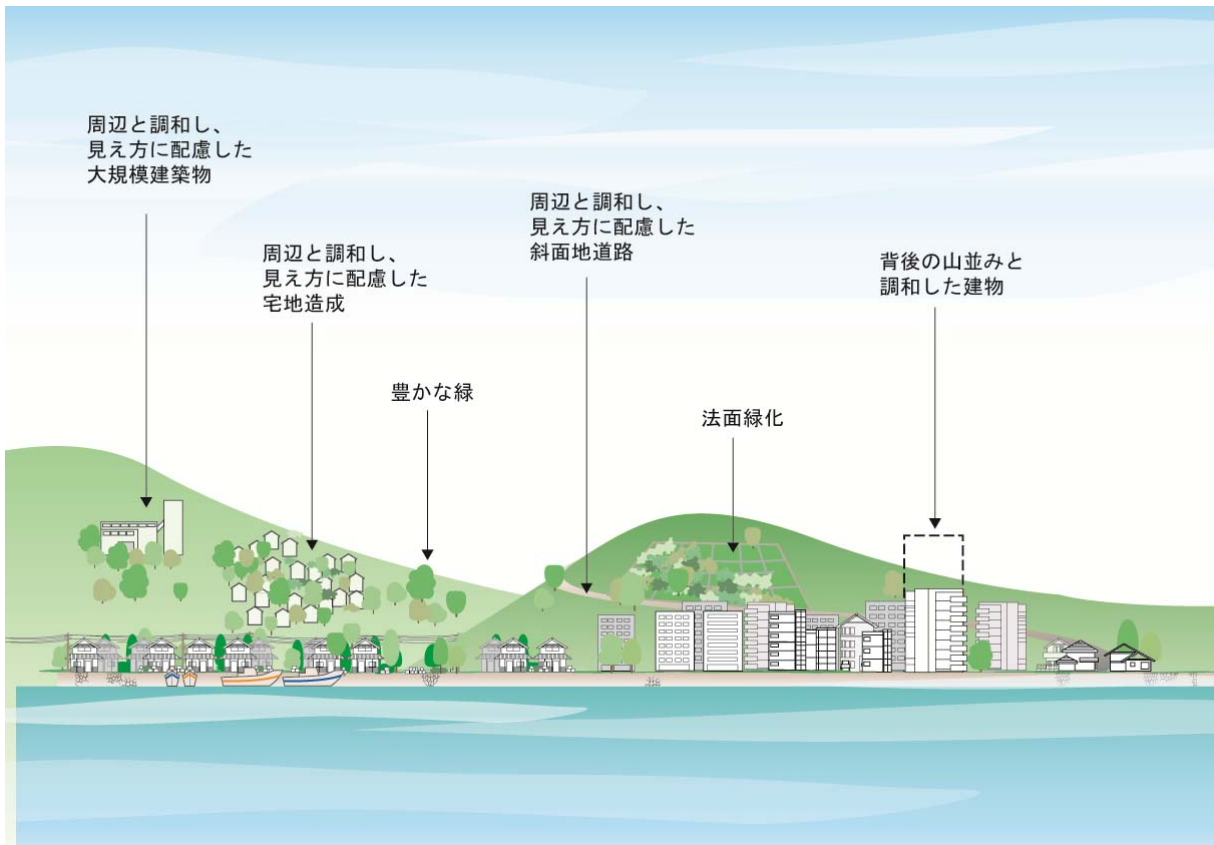
本景観は、対岸や船上から、海を介して緑豊かな山地や斜面地と、その前面に広がる住宅地や農地等が見られる景観であり、山地や斜面地が海に迫る長崎市の地形的特徴を感じさせる景観です。しかしながら一部では、規模の大きな建物により山の稜線が分断されたり、道路建設などによりつくられた巨大なのり面等が目立つところがあります。

このため、背景となる豊かな樹林を保全するとともに、建物等を建設する際には周囲との調和に十分に配慮し、海や山に包み込まれるような景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

海や山に包み込まれるような景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



2. 積み重ねられてきた歴史性・場所性を醸し出す景観

(1) 歴史・文化の景観

地域の歴史・文化的な資産を大切にし、それらとの調和に十分に配慮した景観づくりを行います。

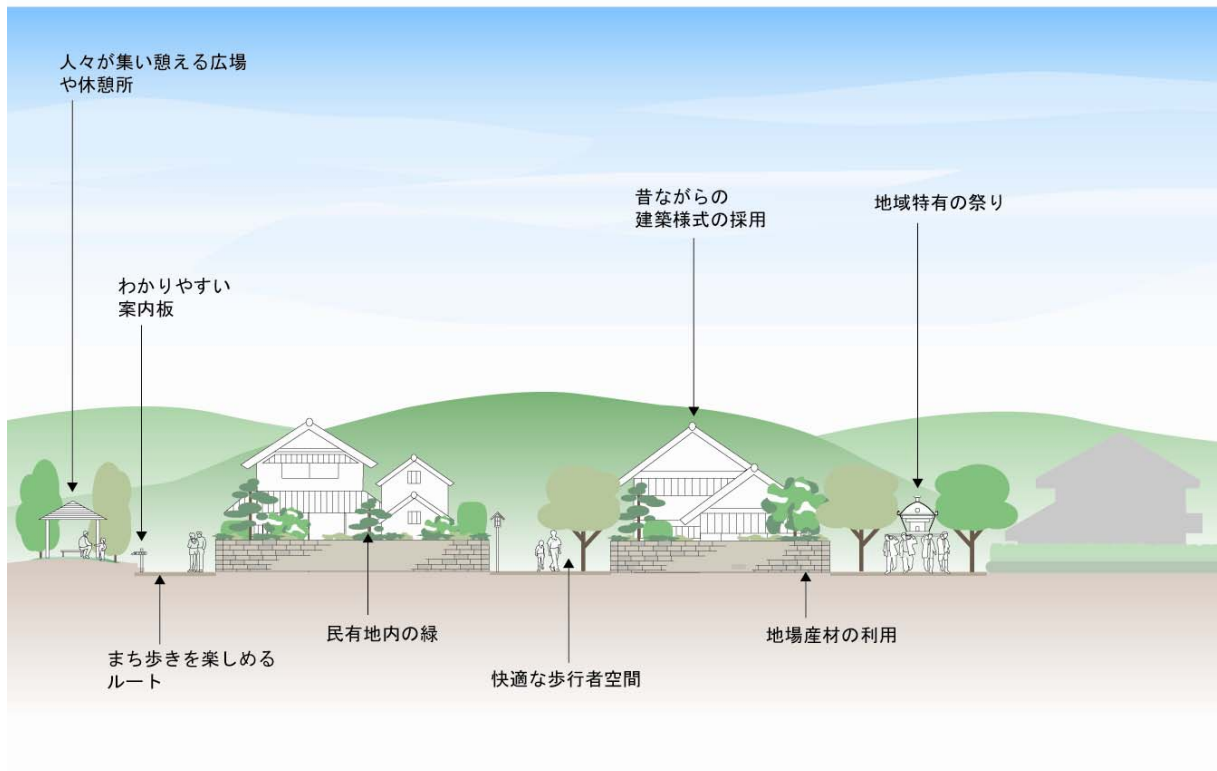
本景観は、歴史ある洋館や教会、古いまちなみ、石畳の道、由緒ある社寺、近代化産業遺産、各地の行事や祭りなどが相まって、地域の歴史・文化性を感じさせる景観です。長い歴史と重層性のある文化を有し、西欧や中国など、長崎の歴史や文化に関わる多様な資産が、景観を形づくっています。一方現状では、各種事業により、歴史的な建物や遺構が失われたり、古いまちなみや歴史ある建物のすぐ隣に、近代的な建物や大規模な建物が建設されるなど、歴史・文化的資産を取り巻く環境に変化が見られるところがあります。

このため、地域の歴史・文化的な資産を大切にし、それらとの調和に十分に配慮した景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

歴史・文化的資産との調和に配慮した景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



3.様々な要素が混じり合う中心市街地の景観

(1) まちなかの景観

建物等への景観的な配慮により整然としたまちなみを形成するとともに、人々が憩い集えるような緑豊かな空間を創出し、賑わいと潤いの感じられる景観づくりを行います。

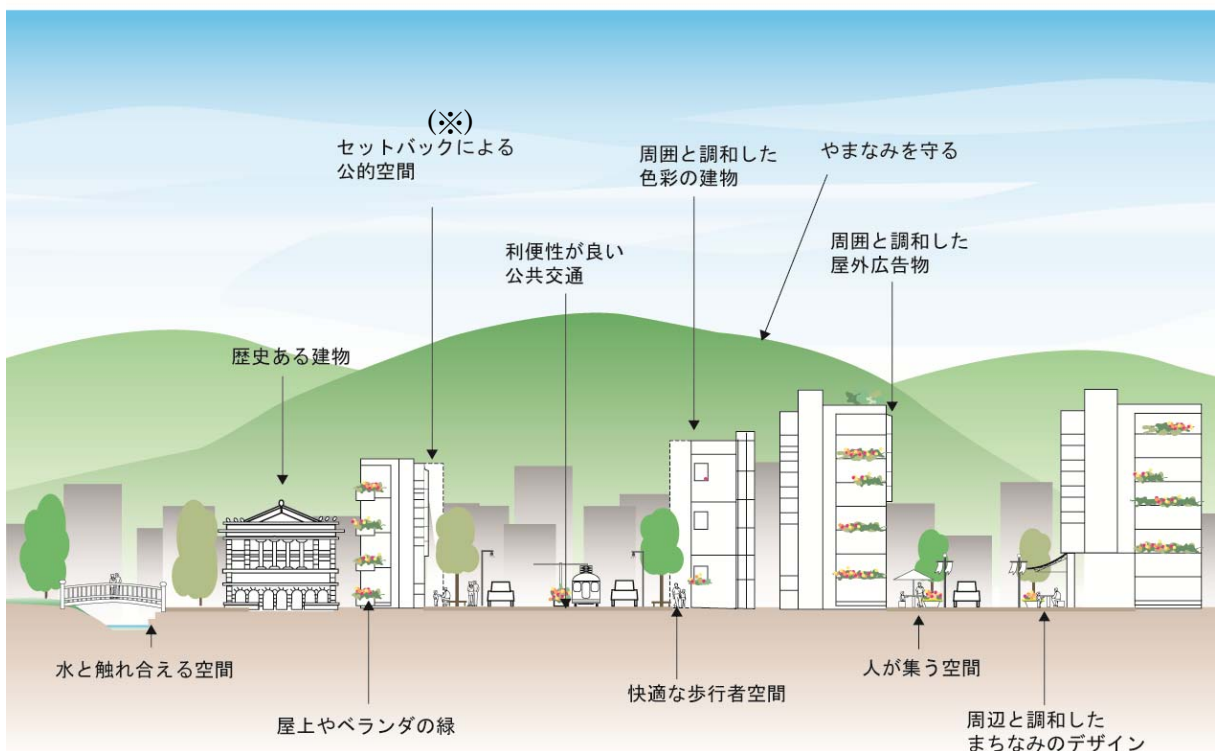
本景観は、中高層建築物が建ち並ぶ都市的な印象を与える景観です。隣接する港や造船所などと一体となってまちがつくられ、活気溢れる様相を呈しています。現状では、派手な色彩の建物等や屋外広告物が氾濫しているところも見られ、賑わいが感じられる一方で、雑然とした印象を与えているところもあります。また、緑量が乏しく、潤い感に欠ける場所が見られます。

このため、建物等への景観的な配慮により整然としたまちなみを形成するとともに、人々が憩い集えるような緑豊かな空間を創出し、賑わいと潤いの感じられる景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

市街地ならではの賑わいと潤いの感じられる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



(※) セットバックとは、後退して建物を建築することです。

(2) 住宅地の景観

まちなみとしての一体性に十分に配慮し、まち全体のまとまりと潤いが感じられる景観づくりを行います。

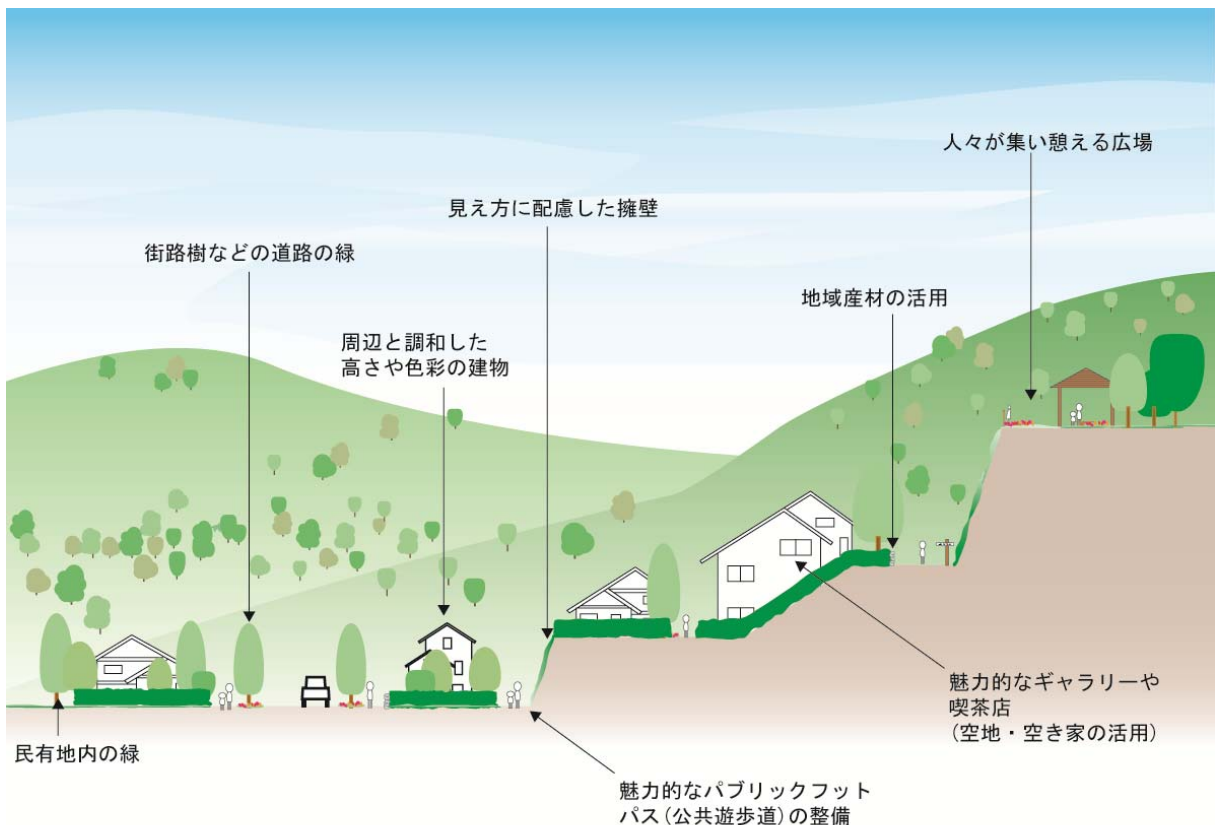
本景観は、連なる家並み、塀や生け垣などにより構成され、生活感や落ち着きが感じられる景観です。特に、斜面地における密集した住宅地の景観は、長崎市の特徴的な景観の一つです。現状では、落ち着きのある景観にあって、周囲から突出した形態や色彩の建物等が見られるところがあります。また、斜面地の住宅地の場合、コンクリート擁壁等により人工感が強くなり、潤いに欠けた景観となっているところがあります。

このため、新興住宅地の建設や既存の住宅地の再開発など、建物等を建設する際には、まちなみとしての一体性に十分に配慮します。また身近なところから緑化を図るなど、まち全体のまとまりと潤いが感じられる景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

まち全体のまとまりと潤いの感じられる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



4. 景観に活気を与える個性豊かな地区の産業景観

(1) 農地・集落の景観

棚田や段々畑などの特徴的な農地景観を保全するとともに、背後の樹林地や周囲の農地との調和に十分に配慮し、潤いと恵みを感じられる景観づくりを行います。

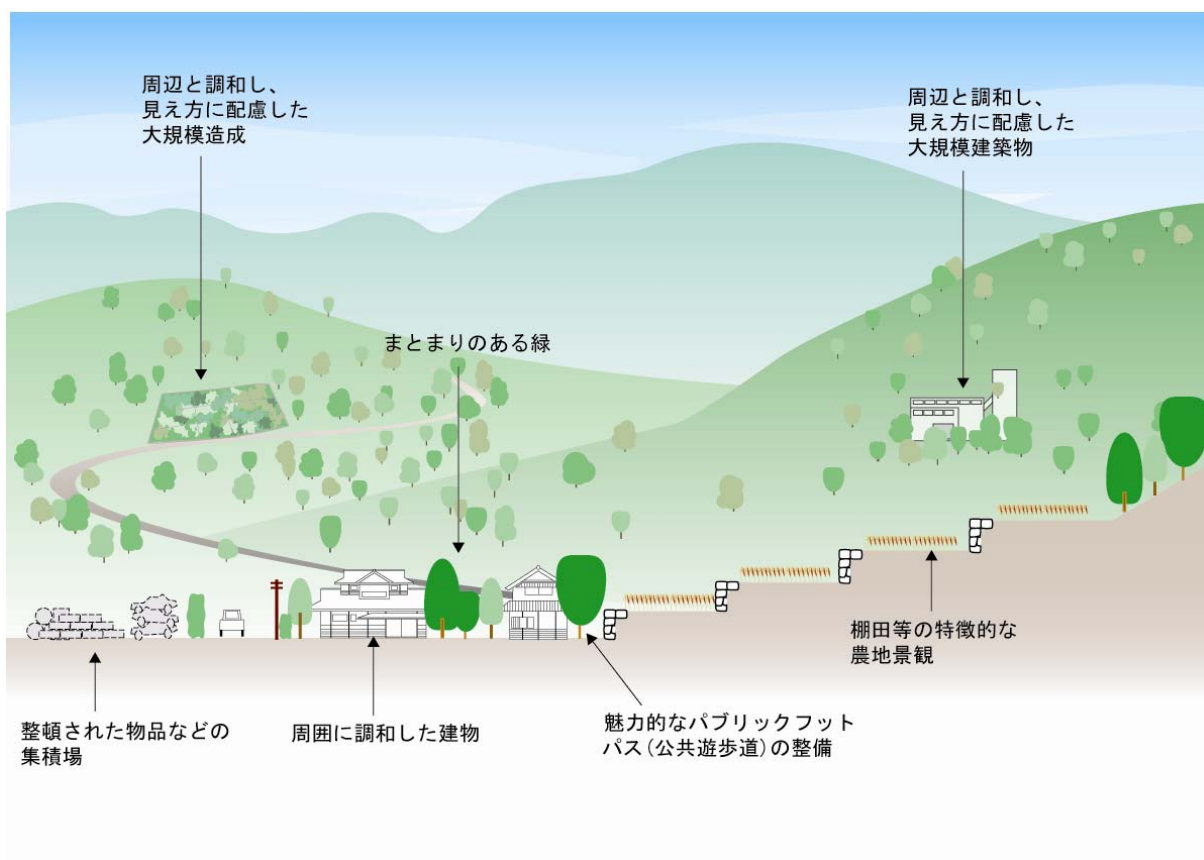
本景観は、広がりのある農地や低層瓦屋根主体の集落、背後の樹林地等が相まって、柔らかく穏やかな印象を与える景観です。特に、長崎市は平坦地が少ないことから、農地が斜面地につくられることが多く、市の地形的な特徴を感じさせます。現状では、従来にはあまり見られなかった形態や色彩の建物等の建設が見られるところがあります。また、斜面の農地を中心に、耕作放棄地が増加しているところもあります。

このため、棚田や段々畑などの特徴的な農地景観を保全するとともに、建物等の建設の際には、背後の樹林地や周囲の農地との調和に十分に配慮し、潤いと恵みを感じられる景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

潤いと恵みを感じさせる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



(2) 漁港・集落の景観

背後の樹林や周囲の建物等との調和に十分に配慮するとともに、緑化や素材の工夫を図るなど、のどかで素朴さの感じられる景観づくりを行います。

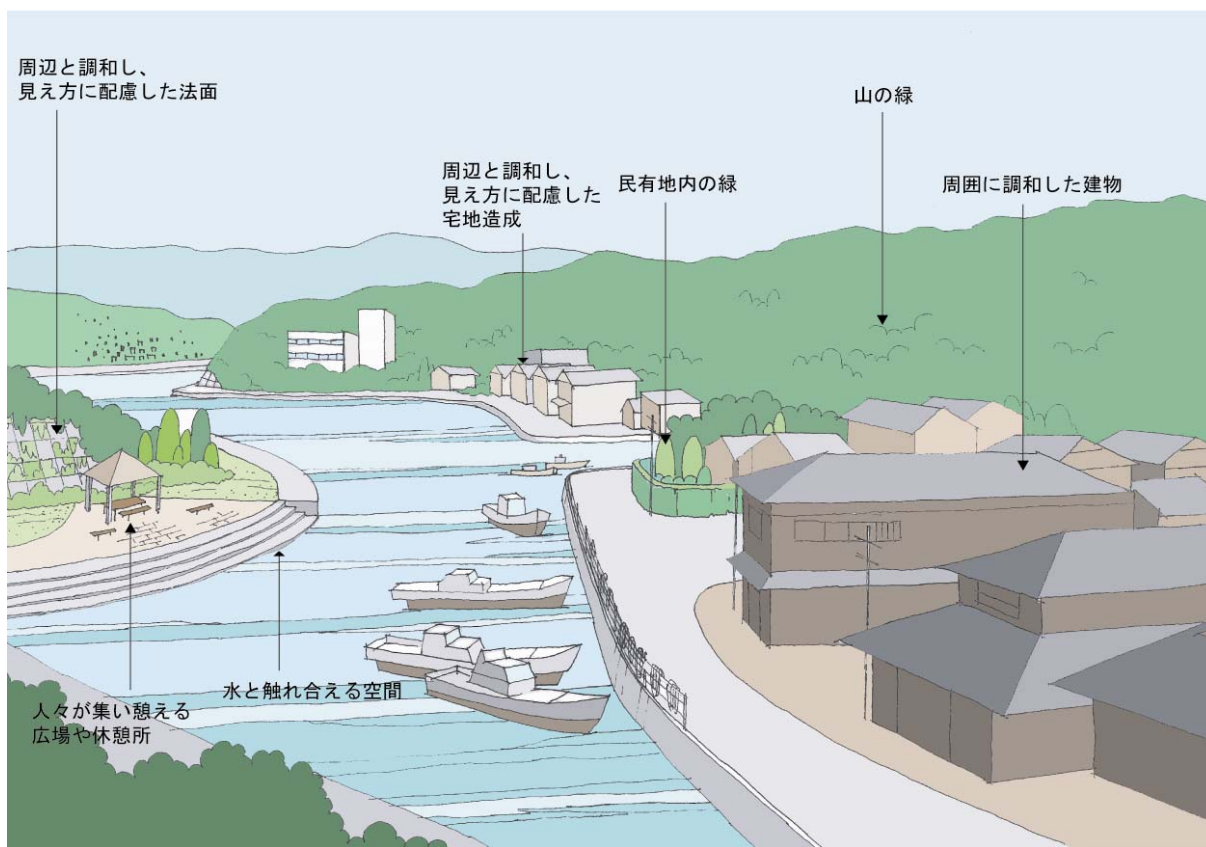
本景観は、低層瓦屋根主体の集落と、それを包み込むような背後の樹林、出入りする漁船等が相まって、素朴な印象を与える景観です。特に、長い海岸線を有する長崎市にあって、市内各地で見られるなじみ深い景観です。現状では、従来にはあまり見られなかった形態や色彩の建物等の建設が見られるところがあります。また、防災的な観点から建設されたコンクリート製の構造物が目立つところもあります。

このため、建物等を建設する際には、背後の樹林や周囲の建物等との調和に十分に配慮するとともに、のり面等の人工感の強い構造物については緑化や素材の工夫を図るなど、のどかで素朴さの感じられる景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

のどかで素朴さの感じられる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



(3) 港湾の景観

港の雰囲気十分に配慮し、港の歴史性を大切にしながら親水性溢れる景観づくりを行います。

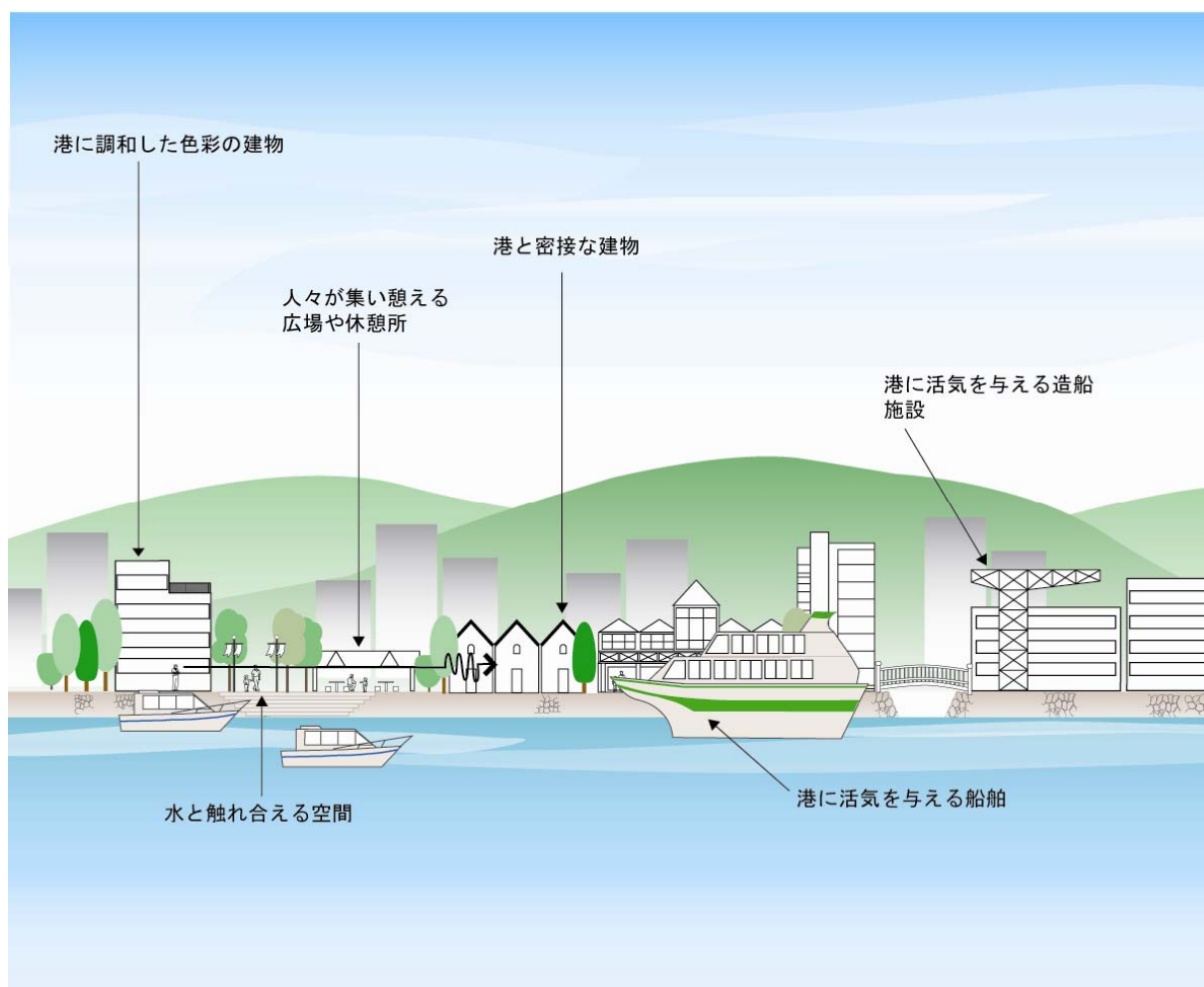
本景観は、巨大な造船ドックやターミナル、行き交う船舶などが相まって、活気を感じられる景観です。港を中心に発展してきた長崎市にとって、市の個性を感じさせる景観です。現状では、港湾の埋め立てが進み、大規模な建物等の建設が見られます。また、造船施設等に代わって他用途の施設が進出し、奇抜な形態や派手な色彩の建物等が見られるところもあります。

このため、建物の建設の際には港の雰囲気に十分に配慮し、港の歴史性を大切にしながら親水性溢れる景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

港の歴史性を大切にしながら親水性溢れる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ



5. 海と交わる自然景観

(1) 海岸の景観

周囲の豊かな自然との調和に十分に配慮し、多様な自然海岸の保全を図るとともに、変化のある海岸景観を楽しめるような景観づくりを行います。

本景観は、長い海岸線と広々とした海原により、ダイナミックさが感じられる自然性の高い景観です。特に長崎市の場合、海岸に沿って道路が整備されており、自動車等から、多様な海岸線と多くの島々等が展開する変化のある景観を見ることができます。

しかし、自然性の高い景観でありながらも人工的なのり面や護岸が目立っていたり、また、海岸の道路沿いには、周囲から突出するような形態や色彩の建物等が見られるところもあります。

建物等の建設の際には周囲の豊かな自然との調和に十分に配慮し、多様な自然海岸の保全を図るとともに、変化のある海岸景観を楽しめるような景観づくりを行います。

◇ 景観づくりの方向

多様な自然海岸の保全と海岸景観を楽しめる景観づくり

◇ 景観づくりのイメージ

